

## 鍼灸科・鍼灸マッサージ科の近況報告

呉竹医療専門学校 副校長兼鍼灸科・鍼灸マッサージ科科长 齋藤 秀樹



梅雨明けが待ち遠しい今日この頃ですが、保護者の皆様は、いかがお過ごしでしょうか。

鍼灸科・鍼灸マッサージ科の新入生達も4月上旬の入学式から早2ヶ月がたちました。最初は、『し～ん』と水を打ったような静かな緊張が見られた各クラスも今は、とても和気あいあいと過ごすのを見かけるようになりました。和気あいあいと書きましたが、

学生の皆さんはきちんと節度を理解しているようです。つまり授業中は真剣そのもの。遅刻も欠席も病欠以外にいません。授業のため教員が教室に入った時に、全員着席し授業を受けるスタイルが出来上がっているのです。授業中の凛とした空気で医学を学習する姿勢は、日本の将来の医学の一端をになうにふさわしい姿と言えます。私たち教職員もまさに『初心忘れるべからず』の『初心』を、彼らを見て思い出しました。

学科の授業は、おそらく初めて聞く西洋医学、東洋医学の用語に苦勞しながらも、きちんと復習を重ねているようです。授業終了後も学校に残り友達同士で勉強をしたり、土日を利用してしっかりとチェックをしたりなど、自分のライフスタイルに合わせて予習復習をしているのが見えます。また、実技授業時には、慣れない技術にとまどいながらも、次の週には、きちんと練習を重ねて来たのか少しずつ進歩していく姿がみられ、こちらも技術職でもある我々ははり師、きゅう師、あん摩マッサージ指圧師としての自覚が少しずつ芽生えてきているのかなと期待しています。

さて、本校ではコミュニケーション能力の育成に力を注いでいます。初めてあった人同士の緊張した関係を、一気に打ち解けさせるアイスブレイクというグループワークを入学時に行って、まずは6人くらいの小グループ内で良好なコミュニケーションを築かせました。現在は、新しいグループで自分が調べたいことをお互いに出し合いながら検討を重ねて、決定したテーマについて調査・研究を行っているところです。今後、数ヶ月間、学生の皆さんはこのグループによる探求を続けながら、仲間と協力して研究のまとめ方などを学ぶ予定です。このようにまとめられた調査・研究は、クラス内の発表会で披露され、クラス内の他のグループからの質疑に対応させながら、グループ内の結束や協調性を高めてまいります。チームワークを発揮して優れた発表を行ったグループには、東洋療法学校協会学術大会で学校代表として発表する機会を提供し、さらに経験を踏ませる予定です。

今月からは中間試験が始まります。実技試験が1週間、その後、学科試験が3日間と少し学生の皆さんにはきつい時期となります。梅雨時期のどんよりした気候とも相まって気分が落ちてしまう学生も出てくる時期です。そんなときに、同じ苦勞を分かち合って乗り越えられる友達がいることは、とても大きな心の支えになります。さらに全日制の本校は1年時よりお昼を越えた授業が多々あります。お昼休みにご飯を一緒に食べて過ごすことで仲間意識が一層高まることも期待しています。

3年間という短期間に一人前の医療人として必要な知識や技術を学ぶことはとても大変です。友達と家庭とそして教職員で一体となり学生の皆さんを支え、導いていければと思います。ご家庭で何か変化にお気づきの時は、担任にご相談ください。我々はご家庭と一緒に考えて行きたいと思います。